

- 03 クローズアップ  
教え子の小論文を活用し、震災を後世に語り継ぐ教材を作成  
岩手県立宮古水産高等学校 教諭（3月12日取材時）  
小笠原 潤さん
- 04 市からのお知らせ  
市民意識調査の結果はこちら！／臨港通・港町・日立浜町・藤原埠頭地区の都市計画を変更しました／福祉タクシー助券を配布します／4月から市の組織の一部が変わります／「みやこポートフェスタ」開幕！多くの船が宮古港に寄港！～4・5月は3隻のクルーズ船が寄港～ ほか
- 09 健康プラザ  
健康相談日程 ほか
- 10 市からのお知らせ  
令和6年4月1日三陸鉄道は開業40周年を迎えます
- 11 まちの話題  
みやこテクノフェスタ2024／第15回みやこ郷土芸能祭／宮古毛ガニまつりイベントIN浄土ヶ浜／第22回宮古毛ガニまつり
- 12 地域おこし協力隊便り特別号  
地域おこし協力隊便り（退任あいさつ）
- 14 子育て情報  
にこにこルームみやこ／つどいの広場／4月のハッピーバースデー ほか
- 16 図書館情報  
市立図書館4月の特集 ほか
- 17 各種無料相談  
4月の各種無料相談日程 ほか
- 18 情報掲示板  
各市民団体などの催し ほか
- 20 お知らせ  
老人憩の家「安庭山荘」4月9日火から営業開始 ほか
- 22 スタジオから・俳句
- 23 ふるさと博物館  
北上山地民俗資料館の資料紹介「味噌踏みつまご」
- 24 まちの話題ピックアップ  
東日本大震災の教訓を胸に



田老南側新防波堤の上では、多くの人が東日本大震災発生時刻の午後2時46分に黙とうをささげました



市民文化会館では「宮古市東日本大震災追悼式」が行われ、山本市長が式辞を述べました



「宮古市東日本大震災追悼式」では、静かに花を手向け故人をしのぶ参加者の姿が見られました

## 4月の納期

### 4月の市税の納期

固定資産税1期

### 4月の夜間・休日の納税相談窓口

【夜間】 ○期日＝4月11日(木)・25日(木)

○時間＝午後5時15分～8時

【休日】 ○期日＝4月21日(日)

○時間＝午前8時30分～正午

※市役所への出入口は2階の市民交流センター側（東側）のみとします。ほかの出入口は施錠されていますので、ご注意ください  
※4月は市税などの収納強化月間です。未納の市税などは今月中に納付するようお願いいたします

■問い合わせ 市税務課収納係（☎68-9074）

### 思いよ届け！能登半島地震の被災地へ

●撮影日 3月11日

●場所 田老南側新防波堤



## 4月の表紙

3月11日、田老南側新防波堤上で「3.11東日本大震災追悼・伝承イベント」が行われ、約200人が参加。海に向かって黙とうがささげられた後、田老第一小学校の児童が能登半島地震の被災地に向けたメッセージが書かれたたこを揚げました。

小林 蓮央くん（同小6年）は「震災を知らないからこそ、学ぶことが大切。年齢や世代に関係なく、多くの人に震災の教訓を伝えていきたい」と力強く話しました。

## 教え子の小論文を活用し、震災を後世に語り継ぐ教材を作成

岩手県立宮古水産高等学校 教諭 (3月12日取材時)

小笠原潤 さん (おがさわら・じゅん 65歳)

東日本大震災から13年が経過し、震災当時のことをあまり覚えていない学生が増えています。そんな中、本市出身の小笠原さんは、教え子の高校生たちが書いた震災に関する小論文を編さんし、次世代の生徒たちに震災を伝える教材として活用しています。小笠原さんは「震災の記憶がない生徒たちでも、同年代の言葉だからこそ共感できること



があるのでは」とその意義を語りまします。教材に使用している小論文は、震災当時赴任していた宮古高校をはじめ、沿岸5つの高校の生徒が書いたもの。2011年度から21年度までで160篇以上にも及びます。

理科の授業を担当する小笠原さんが、震災についての小論文を生徒に書かせ始めたのは「教員として、子どもたちが震災当時に抱えていた想いを残したい」と考えたからです。震災後の授業には、インドネシア・スマトラ島での研修経験を生かし、20年前に発生したインド洋大津波と東日本大震災の比較や、自然環境を生かした防災に関する内容を取り入れました。

その授業の振り返りとして書かれた小論文には、生徒たちの体験談のほか、支援活動や生き方に対する想いが約600字でまとめられています。

震災時、未就学だった世代が高校に入学した3年前からは、先輩たちの小論文を15篇ずつにまとめた文集を課題として配布しています。小論文を読んで「共感したことや、自分がこれからできること」を考えると、いう課題には「今後、も必ず起きる災害に当事者意識を持つてほしい」という想いが込められています。

この文集は市立図書館などへ寄贈していて、市民交流センター1階交流プラザの書架にも配置されているほか、防災教育普及協会のホームページでも公開されています。小笠原さんは「自分の授業以外にも防災イベントなどで文集を活用し、広く震災学習に役

授業の枠を越えて高校生の体験や想いを伝えていきたい

立ててほしい」と呼びかけます。今後は、場所や年齢を選ばず、誰でも使える震災学習の教材に発展させることを目指しています。

授業の最後には「防災や復興にはさまざまな立場から関わることができる」と必ず伝えていく小笠原さん。「震災を経験した子どもたちが震災をどう受け止め、どのような未来を描いていたのか。小論文を読んで自身の生き方を考えるきっかけにしてほしい」と力を込めます。



市民交流センター1階交流プラザに配置されている文集